



ありたい姿から始める農村RMO



20241219東北
弘前大学平井太郎

ありたい未来への行き着き方を探る

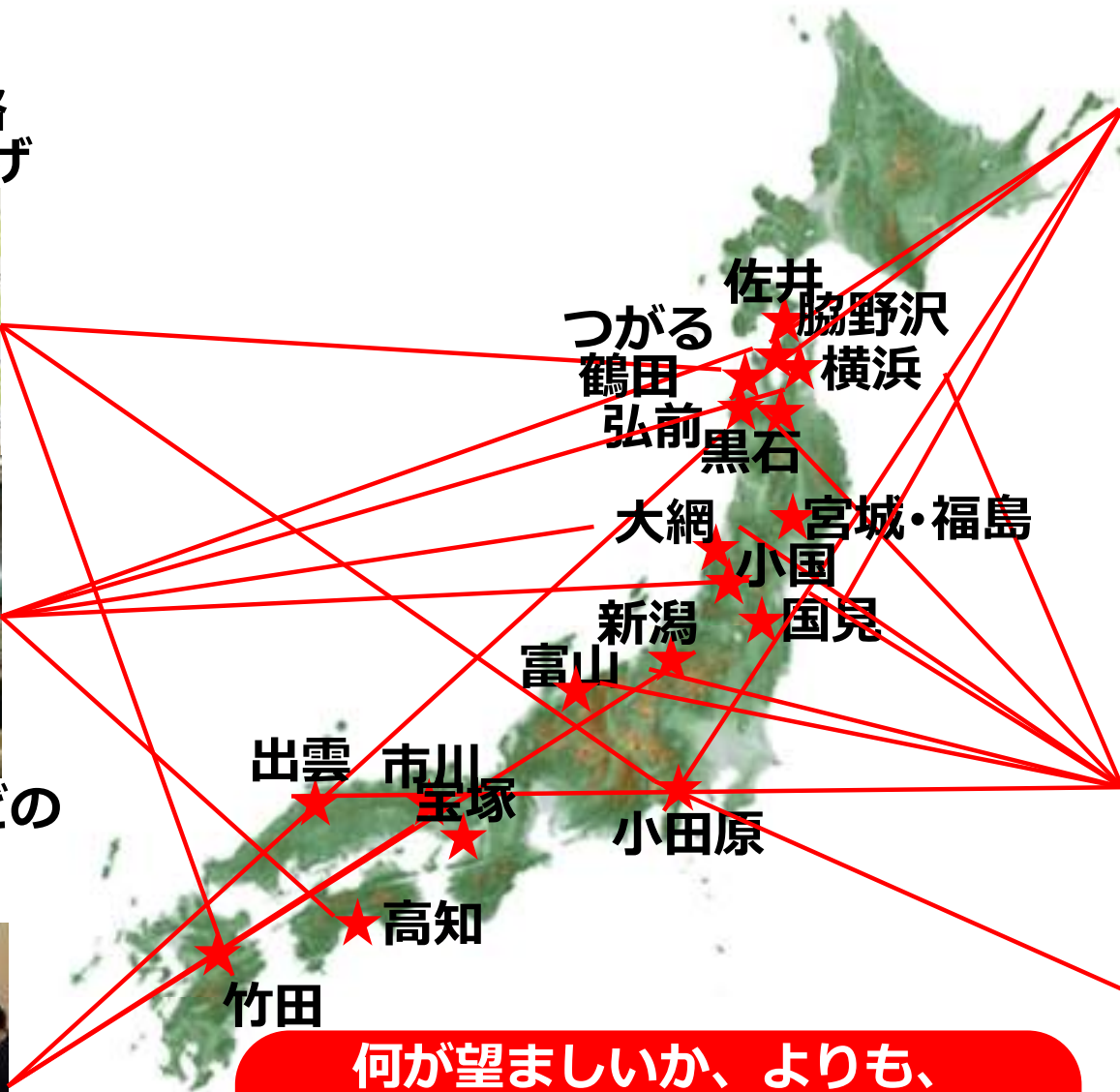
総合計画・総合戦略
ビジョンと積み上げ



旧学校・空き家などの
再生(管理構想)



移住者・関係人口
との共創(協力隊)



伝統行事の継承
(歴史まちづくり)

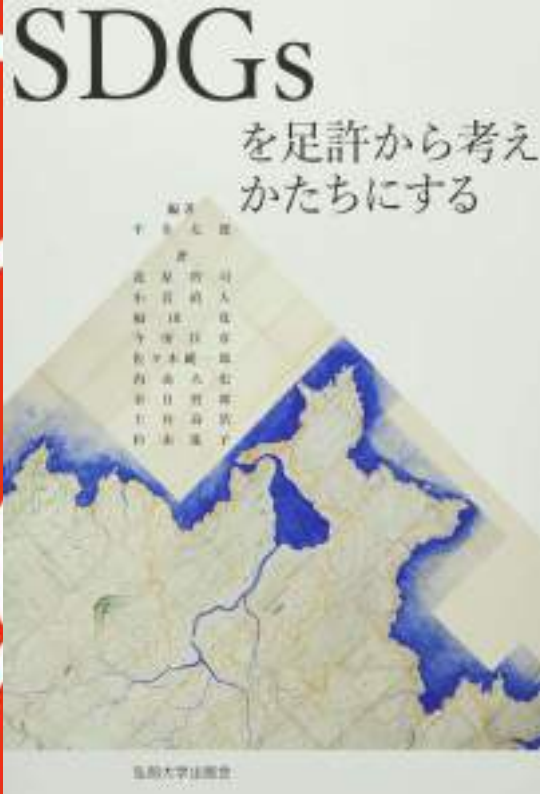
持続可能な生業
(農村RMO
・みどりシステム)



何が望ましいか、よりも、
どうしたらありたい未来が、
現場の実践actionから
生み出せるかを研究research
年間50件ほどワークショップ

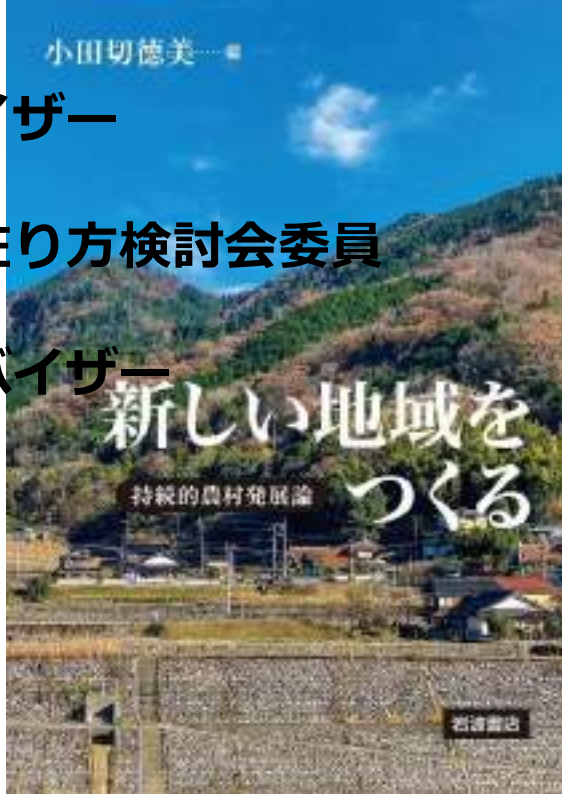


失われた世代の
みかん農家



現場のみなさんから学んだことを随所に織り込ませていただいています！

総務省
 地域力創造アドバイザー
 農林水産省
 新たな農村政策の在り方検討会委員
 国土交通省
 地域管理構想アドバイザー



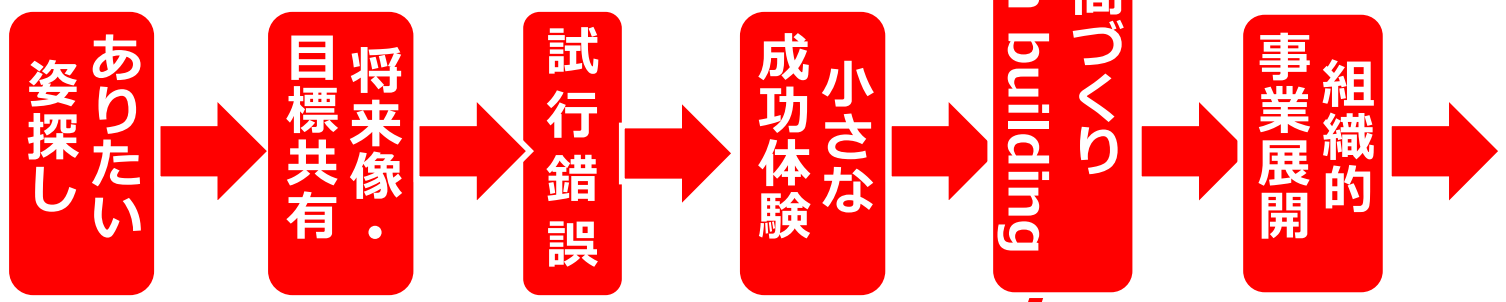
地域づくりをどう進めるか

踊り場に来たとき、現場からアイデアが次々出るようにしたい

気候変動やグローバル化に順応する踊り場

理想 + 寄り添い

主語は住民 → 住民も行政も

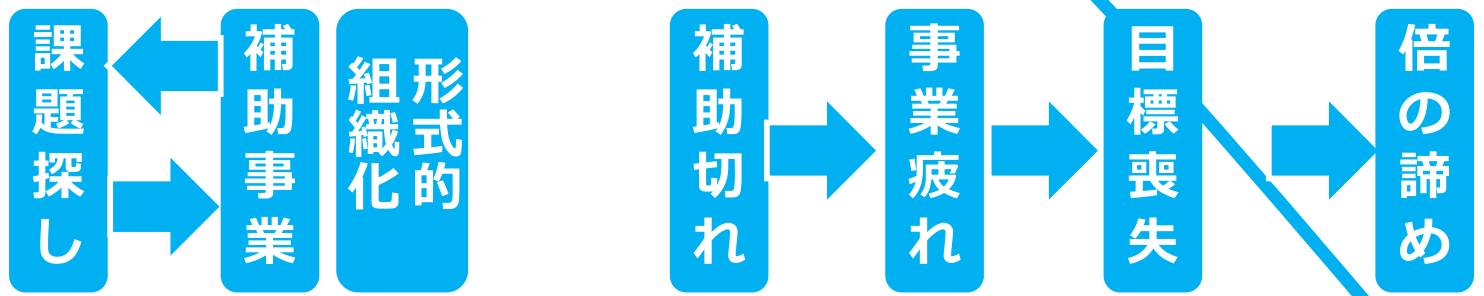


かけた時間は費用ではなく資本

中越復興では3-5年で分岐点

地域力 地域の盛り上がり

危機感 + 補助金



時間

食料・農業・農村基本法改正を受けた政策の進め方

- 食料・農業・農村基本法の改正案の国会成立を受けて、**基本計画の改定**を行う。
- また、**基本計画の改定を待たずに打つべき施策は打つなど、食料安全保障の強化に向けて施策を集中実施。**
- **合理的な価格の形成、人口減少下における土地改良の在り方**などの関連法案については、令和7年中の国会提出を視野に法制化を検討。

<p>食料システムの持続性の確保に向けた合理的な価格の形成等（法制化）</p>	<p>・関係者の協議によるコスト指標づくりを推進しつつ、持続的な食料供給に必要な合理的なコストを考慮する仕組みを新たに法制化</p> <p>・食料システムの持続性の確保に向けた食品事業者の取組促進（環境・人権、農業者との連携等）等</p>	<p>令和7年中の 法案国会提出</p>	<p>食料・農業・農村基本計画の改定（令和6年度中）</p>
<p>人口減少下における農業用インフラの保全管理（土地改良法制の見直し）</p>	<p>・人口減少に対応、基幹的な用排水施設について、申請がなくても更新等を行えるよう手続の簡素化</p> <p>・末端インフラの適切な保全のため、土地改良区と地域の関係者による議論・体制づくりを推進</p> <p>・災害リスクの増大に対応するため、緊急的な防災事業について、事業目的に地震・豪雨対策に加え老朽化対策を追加</p>	<p>令和7年中の 法案国会提出</p>	
<p>環境負荷低減の取組推進</p>	<p>・農水省関係の補助金受給に際し、適正な化学農薬・肥料の使用など、環境負荷低減に取り組むこと等を要件とするクロスコンプライアンスの実施（令和6年度から試行実施中）</p> <p>・更に先進的な環境負荷低減の取組を行う場合に交付金を交付する仕組みの創設（令和9年度以降を想定）</p> <p>・消費者理解醸成に向けた環境負荷低減の取組の見える化、J-クレジットによる民間資金の活用 等</p>	<p>・令和6年～ クロスコンプライアンス実施</p> <p>・令和9年目途 環境関係の交付金の在り方見直し</p>	
<p>令和6年通常国会において法案成立</p>	<p>食料供給困難事態への対応</p>	<p>・民間在庫を含めた国の潜在的な食料供給確保量の把握</p> <p>・上記を踏まえて民間在庫も組み合わせた総合的な備蓄方針の明確化</p> <p>・具体的な局面を想定した食料供給困難事態の対処方針の明確化 等</p>	<p>令和7年中 国の基本方針策定</p>
<p>人・農地の確保</p>	<p>・令和7年3月末までの各地における地域計画の策定</p> <p>・地域計画を踏まえた担い手の育成・確保と農地の集積・集約化、ほ場整備</p> <p>・令和7年中に、食料安全保障の強化に必要な農地面積の明確化 等</p>	<p>・令和7年3月末まで 地域計画の策定</p> <p>・令和7年中 国の基本指針策定</p>	
<p>スマート農業技術の開発促進と生産・流通等の方式の変革</p>	<p>・令和6年中に、スマート農業技術の重点開発目標の設定（基本方針の策定）</p> <p>・農研機構の施設供用等を通じたスタートアップ支援</p> <p>・リース方式、サービス事業者等を通じたスマート農業機械の普及と、生産現場での栽培方式等の変革促進 等</p>	<p>令和6年中 国の基本方針策定</p>	

食料安全保障の強化に向けた施策の集中実施

農村振興、特に「生活面」の取り組みの核にある農村RMO 地域おこし協力隊や特定地域づくり事業協同組合(ローカル派遣会社)、 二地域居住、通い農、協定のネットワーク化などが展望

農村の振興

克服すべき課題（続き）

○ 「生活面」の取組

- ・生活の利便性が低いと、更なる高齢化・人口減少につながり、集落存続の危機が深まるため、日々の生活に必要な**生活環境**（買い物、医療、教育等へのアクセスや、高齢者見守り等福祉サービスなど）の**改善が重要である**。
- ・特に中山間地域では、人口減少等により、農業生産活動のみならず地域の共同活動の継続についても懸念されているほか、地域資源の保全や生活など**集落維持に必要な機能が弱体化しており、その補完が必要である**。

○ 民間企業や関係省庁との連携を通じた経済面・生活面の取組

- ・各地域における経済面・生活面の課題解決には、農業者だけではなく、**外部（他産業・他地域）企業を巻き込んで対応することが不可欠である**。他方で、企業側では、課題解決に有効なソリューションを有していても、自治体や現場との折衝が難航して有効活用できていない。地域（市町村）側では、地域課題の深掘りを十分に行えていない。
- ・集落機能の維持が困難になった場合においても、**地域農業を継続していくことが必要である**。
- ・関係省庁間の連携を強化し、地域の実情に応じたきめ細やかな対応が必要である。

○ 地域の共同活動

- ・草刈りや泥上げ等の地域の**共同活動**については、活動参加者の減少や高齢化による**組織の弱体化**が懸念されることから、**活動の継続に向けた体制整備が必要である**。
- ・また、組織の役員や事務担当者の高齢化・後継者不足等が進む中、**事務が負担となる組織が増えている**。

検討の視点（続き）

○ 「生活面」の取組

- ・地域内外の農業者と非農業者が連携して農用地の保全、地域資源の活用、生活支援などに取り組む**農村型地域運営組織（農村RMO）の形成が必要**。特に中山間地域等の小規模集落向けに、**農村RMOの立上げや活動充実の後押しと、市町村・都道府県・関係府省と連携したサポート体制の構築を推進することが必要ではないか**。

○ 民間企業や関係省庁との連携を通じた経済面・生活面の取組

- ・民間企業や農村を含めた地域振興に係る**関係省庁と連携し、官民共創の仕組みを活用した地域内外の民間企業の参画促進や地域と企業のマッチング**等を行う必要があるのではないかと。また、**農外企業人材のマルチワークによる農業への参画を推進してはどうか**。
- ・関係省庁との連携のもと、**地域おこし協力隊の農業への従事や農村RMOへの参画、特定地域づくり事業協同組合制度による農村RMOや農業等への人材派遣、二地域居住の普及・定着による農村への人の呼び込み、通いによる農業への参画・コミュニティ維持などの取組の推進が必要ではないか**。

○ 地域の共同活動

- ・中山間地域等直接支払については、共同活動が継続できる仕組みを構築するため、**集落協定のネットワーク化や多様な組織等が活動への参画が可能な体制づくりを進めることが必要ではないか**。
- ・多面的機能支払については、活動組織の更なる体制強化に向け、**広域化を図りつつ、県・市町村等の支援により外部団体等とのマッチング、多様な組織や非農業者の参画等を推進すべきではないか**。また、広域化を進めることで、集落の人員不足を補うために複数の集落で草刈りや水路の泥上げ等の活動を行う体制づくりを推進することが必要ではないか。
- ・また、中山間地域等直接支払と多面的機能支払の両支払に取り組む地域における**事務局の一元化等、事務の効率化を推進することが必要ではないか**。

61-5 農山漁村振興交付金（中山間地農業推進対策）のうち 農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業

【令和6年度予算概算決定額 8,389（9,070）百万円の内数】

<対策のポイント>

中山間地域等において、複数の集落の機能を補完する農村RMOの形成を推進するため、むらづくり協議会等が行う実証事業やデジタル技術の導入・定着を推進する取組のほか、協議会の伴走者となる中間支援組織の育成等の取組を支援します。

<事業目標>

農用地保全に取り組む地域運営組織（100地区 [令和8年度まで]）

<事業の内容>

1. 農村RMOモデル形成支援

むらづくり協議会等による地域の話合いを通じた農用地保全、地域資源活用、生活支援に係る将来ビジョン策定、ビジョンに基づく調査、計画作成、実証事業等の取組、デジタル技術の導入・定着を推進する取組を支援します。

【事業期間：上限3年間、交付率：定額（上限3,000万円（1,000万円（年基準額）×事業年数））】

2. 農村RMO形成伴走支援

農村RMO形成を効率的に進めるため、中間支援組織の育成等を通じた都道府

<事業イメージ>



農村RMOとは...
 簡単に言えば、
 日本型直払の集落協定と
 集落の生産組織、自治組織、福祉組織などを「一体的に」運営すること
 =ヒト・モノ・知恵・財源の融通
 ただし！大事なのは組織形態や実施事業
 よりも地域でしっかり話し合い
 「ありたい姿」を描き実現すること

農村RMOモデル形成支援

農村RMO形成伴走支援

【都道府県単位の支援】
 中間支援組織による人材育成研修

【全国単位の支援】
 農村RMO研究会による情報・知見の蓄積・共有、研修等の支援

【お問い合わせ先】 農村振興局地域振興課 (03-3501-8359)

農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業 実施状況

R6.1.22 時点

中国四国

- 島根県（7地区）**
- ① 和田地区まちづくり推進委員会（浜田市）
 - ② 今福まちづくり委員会（浜田市）
 - ③ 佐田地域づくり協議会（出雲市）
 - ④ 久利・大屋地区小さな拠点推進協議会（大田市）
 - ⑤ 池田集落協定運営委員会（大田市）
 - ⑥ 運動と安らぎの里づくり鶴山（雲南市）
 - ⑦ 出羽地区運営協議会（邑南町）

- 岡山県（1地区）**
- ① 吉城紀村協議会（真庭市）

- 広島県（3地区）**
- ① 石原集落地域振興協議会（三次市）
 - ② 田幸地区町内会連合会（三次市）
 - ③ 庄原市山内集落地域振興協議会（庄原市）

- 徳島県（3地区）**
- ① 加茂谷RMO推進協議会（阿南市）
 - ② 椿町農村RMO運営組織協議会（阿南市）
 - ③ 赤松地区農村RMO推進協議会（美波町）

- 愛媛県（1地区）**
- ① 奥松瀬川地区農村活性化協議会（東温市）

- 高知県（4地区）**
- ① 本山町農村みらい会議（本山町）
 - ② 明るい柳野を創る会（いの町）
 - ③ 集落活動センター「四万川」推進委員会（椿原町）
 - ④ （一社）三原村集落活動センターやまびこ（三原村）

九州

- 長崎県（1地区）**
- ① 根獅子・飯良まちづくり運営協議会（平戸市）

- 熊本県（2地区）**
- ① 菊鹿さきもり隊（山鹿市）
 - ② くまむら地域再生協議会（球磨村）

- 宮崎県（2地区）**
- ① 酒谷地区むらおこし推進協議会（日南市）
 - ② 東米良地区1000年協議会（西都市）

- 鹿児島県（2地区）**
- ① 北山校区コミュニティ協議会（館良市）
 - ② 天城町地域づくり協議会（天城町）

関東

- 長野県（3地区）**
- ① 戸隠地域づくり協議会（長野市）
 - ② 小谷村農村地域づくり協議会（小谷村）
 - ③ 秋山郷地域づくり協議会（栄村）

北陸

- 新潟県（2地区）**
- ① かみさた地域むらづくり協議会（見附市）
 - ② （一社）柳地農業振興会（上越市）

- 富山県（5地区）**
- ① 黒瀬谷KIRARI活性化協議会（富山市）
 - ② 遠川地区まちづくり協議会（氷見市）
 - ③ 大黒屋地域づくり協議会（南砺市）
 - ④ 釜ヶ淵みらい協議会（立山町）
 - ⑤ 東谷活性化協議会（立山町）

- 石川県（2地区）**
- ① 能登島地域づくり協議会（七尾市）
 - ② 鉾打ふるさとづくり協議会（七尾市）

市町村	事業実施主体
北上市	かてまち地域づくり協議会
湯野町	土淵町農村活性化協議会
奥州市	伊手農村農業活性化協議会
〃	星の広場
〃	赤坂まちづくり協議会（坂）
川崎町	はせくら地区活性化推進協議会
加美町	野良地区コミュニティ推進協議会
にかほ市	星のひろば協議会
藤野町	ふじさとふるさと地域活性化協議会
三浦町	下野川地域づくり協議会
酒田市	日向地域づくり協議会（坂）
〃	大沢わでわでまち協議会（坂）



- 東北**
- 岩手県（4地区）**
- ① たてまち地域づくり協議会（花巻市）
 - ② 土淵町農村活性化協議会（遠野市）
 - ③ 伊手農村農業活性化協議会（奥州市）
 - ④ 星の広場（奥州市）

- 秋田県（2地区）**
- ① 星のひろば協議会（にかほ市）
 - ② ふじさと粕毛地域活性化協議会（藤沢町）

- 福島県（1地区）**
- ① チームさまげネットリょうぜん（伊達市）

- 東海**
- 岐阜県（1地区）**
- ① 加子母むらづくり協議会（中津川市）
- 愛知県（2地区）**
- ① 岡崎市下山学区地域づくり協議会（岡崎市）
 - ② しさしまの家運営協議会（豊田市）
- 三重県（1地区）**
- ① 勢和農村RMO協議会（多気町）

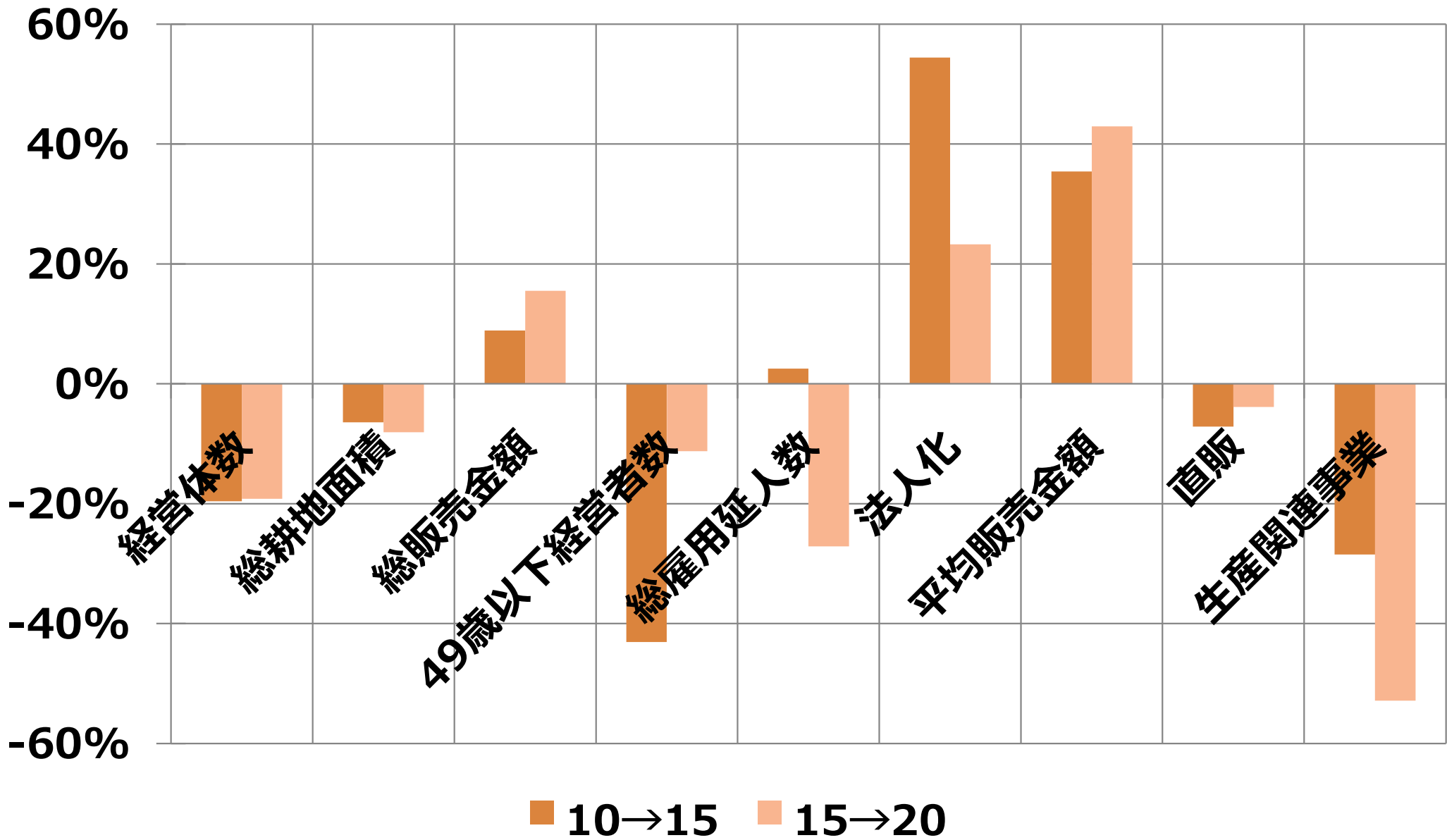
- : モデル形成支援地区（R4着手）28地区
- : モデル形成支援地区（R5着手）28地区
- : 都道府県伴走支援（R4着手）7箇所
- : 都道府県伴走支援（R5着手）6箇所

赤字は「デジ活」中山間地域登録エリア

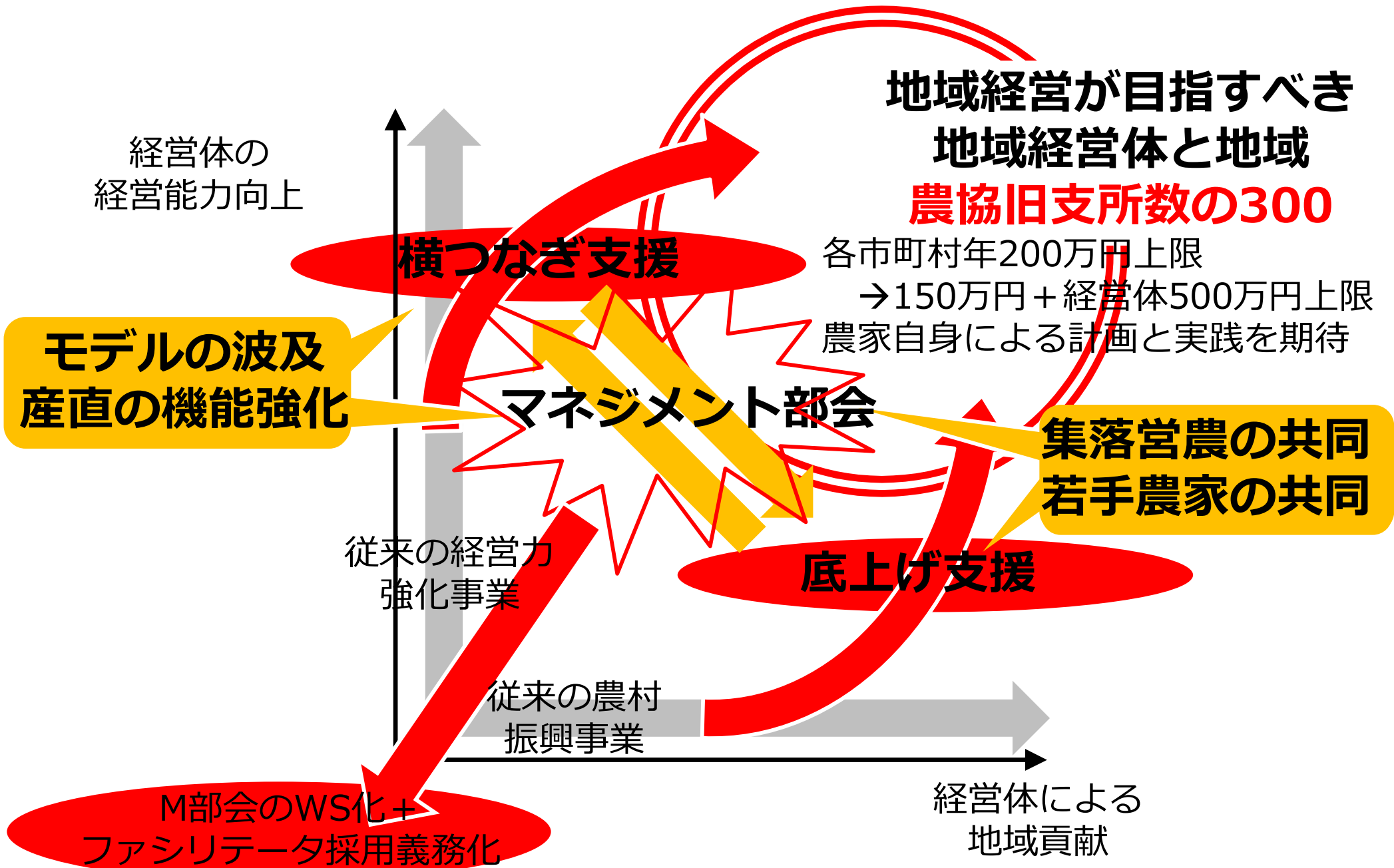
モデル事業地区だけが農村RMOではない！組織ではなく実践がポイント！

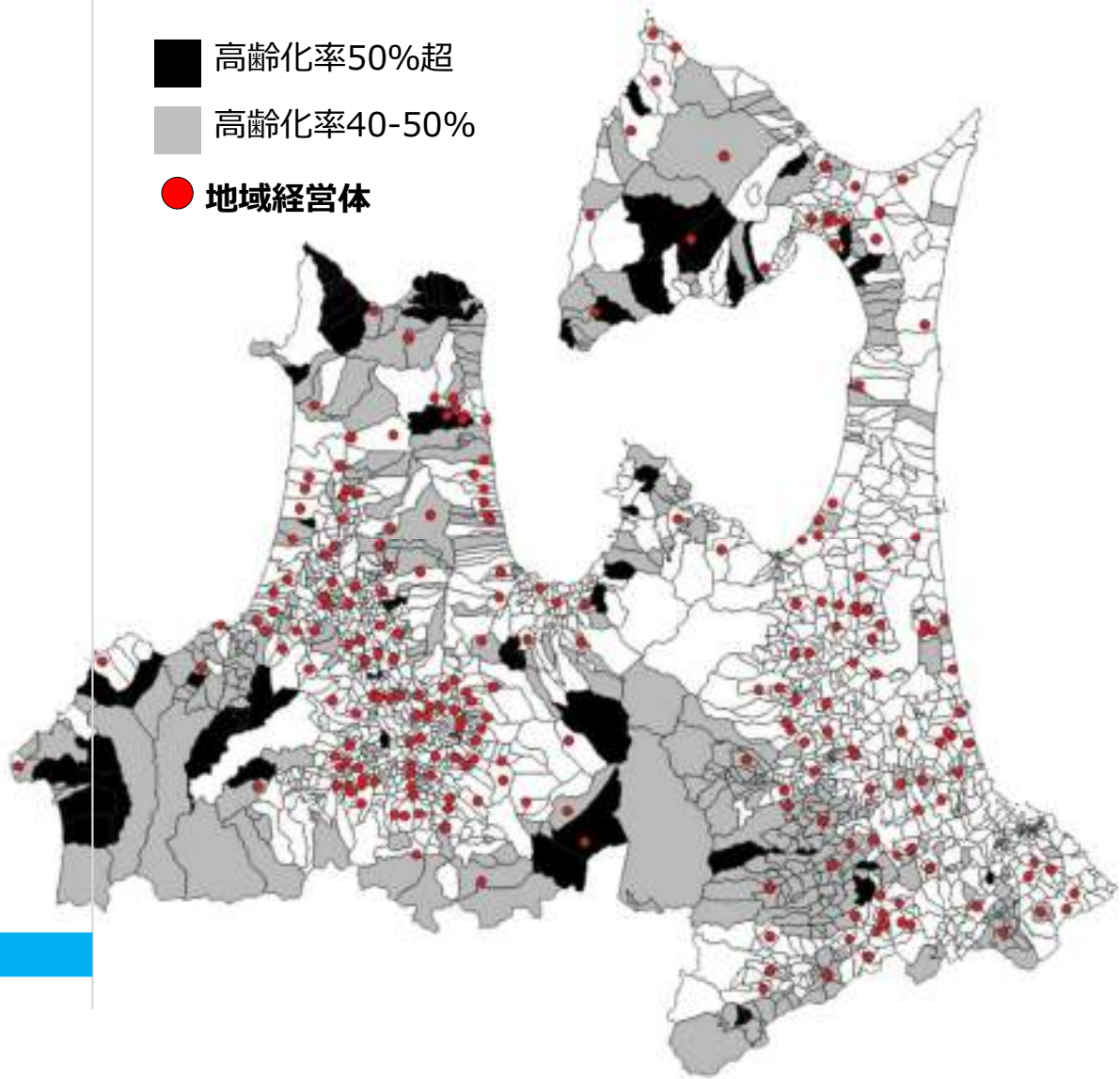
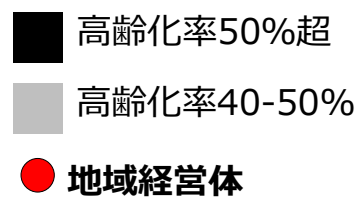
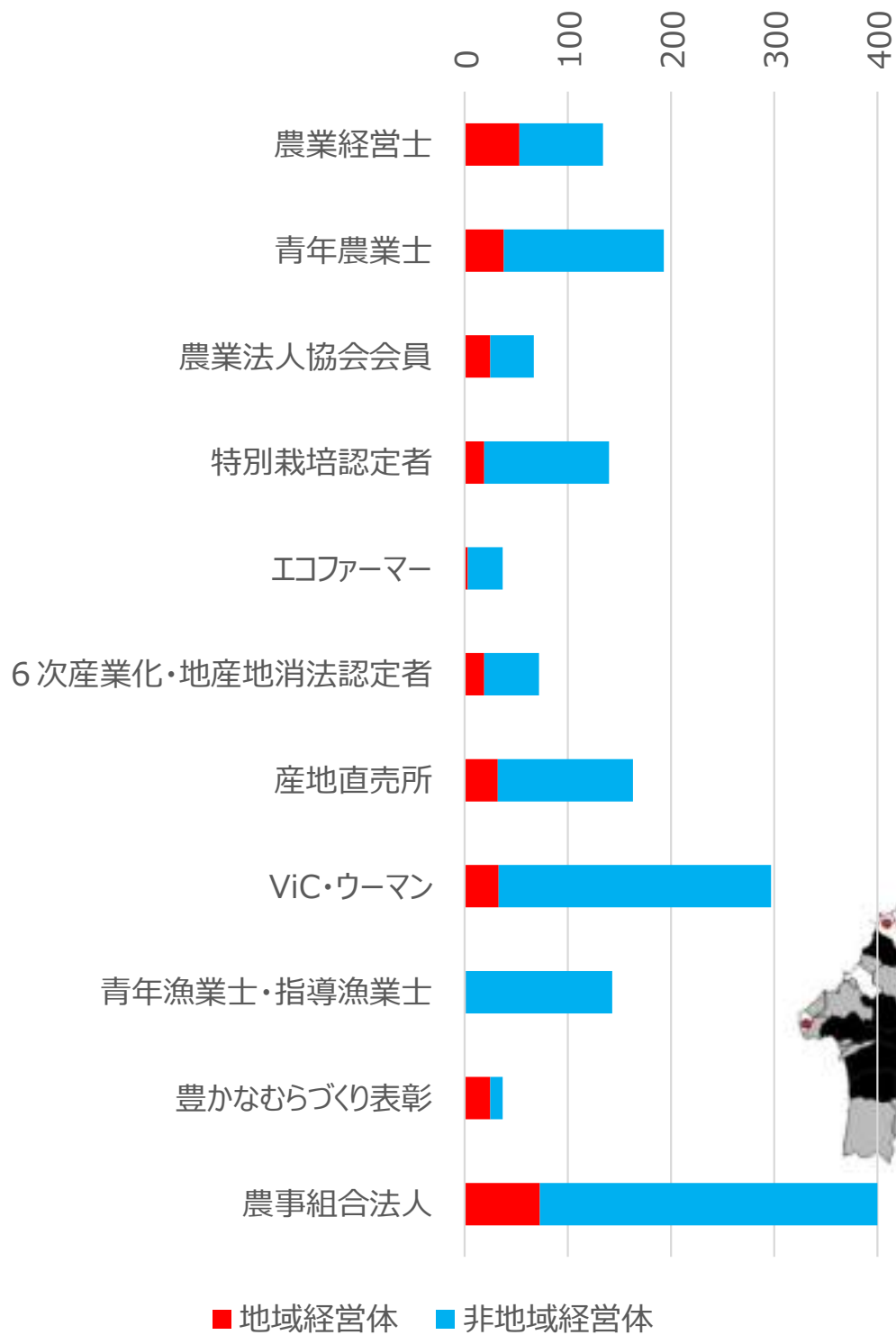
青森県地域経営事業(2012年～)

「農業栄えて農村減ぶ」——攻めの農林水産業と同時に進めてきた地域に多様に貢献する地域経営体とその取り組みの掘り起こし



青森県農山漁村「地域経営」が目指すもの



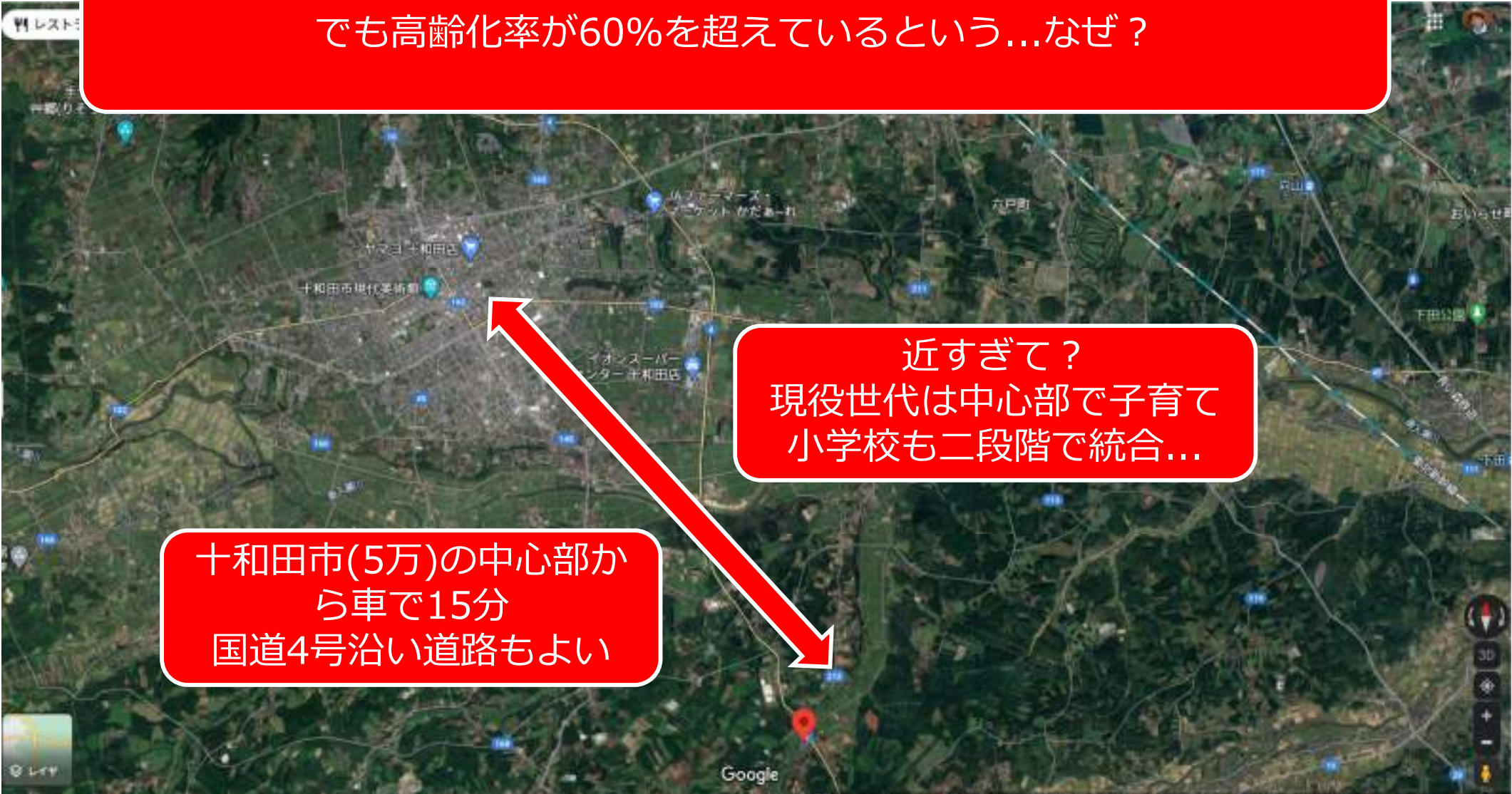


■ 地域経営体 ■ 非地域経営体

十和田市一本松地区でのあおもり型農村RMO

30世帯、約100人、農地約30haという青森県のごく標準的な集落
国道4号沿いで女性グループも元気=車で2-3分の道の駅の人気お惣菜

でも高齢化率が60%を超えているという...なぜ？



近すぎて？
現役世代は中心部で子育て
小学校も二段階で統合...

十和田市(5万)の中心部から車で15分
国道4号沿い道路もよい

話し合いのテーマを一言でまとめるKWを最後に

2020.7.15
一本松の将来への一瞥

The collage contains numerous handwritten notes and sticky notes. Key elements include:

- Title:** 一本松の将来への一瞥 (A Glimpse into the Future of Ichihonmatsu)
- Date:** 2020.7.15
- Sticky Notes:** Various blue, pink, and yellow notes with handwritten text, some mentioning '一本松' (Ichihonmatsu), '生活改善' (improvement of living conditions), and '生産組合' (production cooperative).
- Red Circles:** One circle highlights the title, and another highlights a note that says '一本松'.
- Red Arrow:** Points from the title area down to the first red box.

女性=生活改善の仲間たち、生産組合=圃場整備関連、そして町内会のおじさんたちの3班に分かれてまずはつぶやき合戦

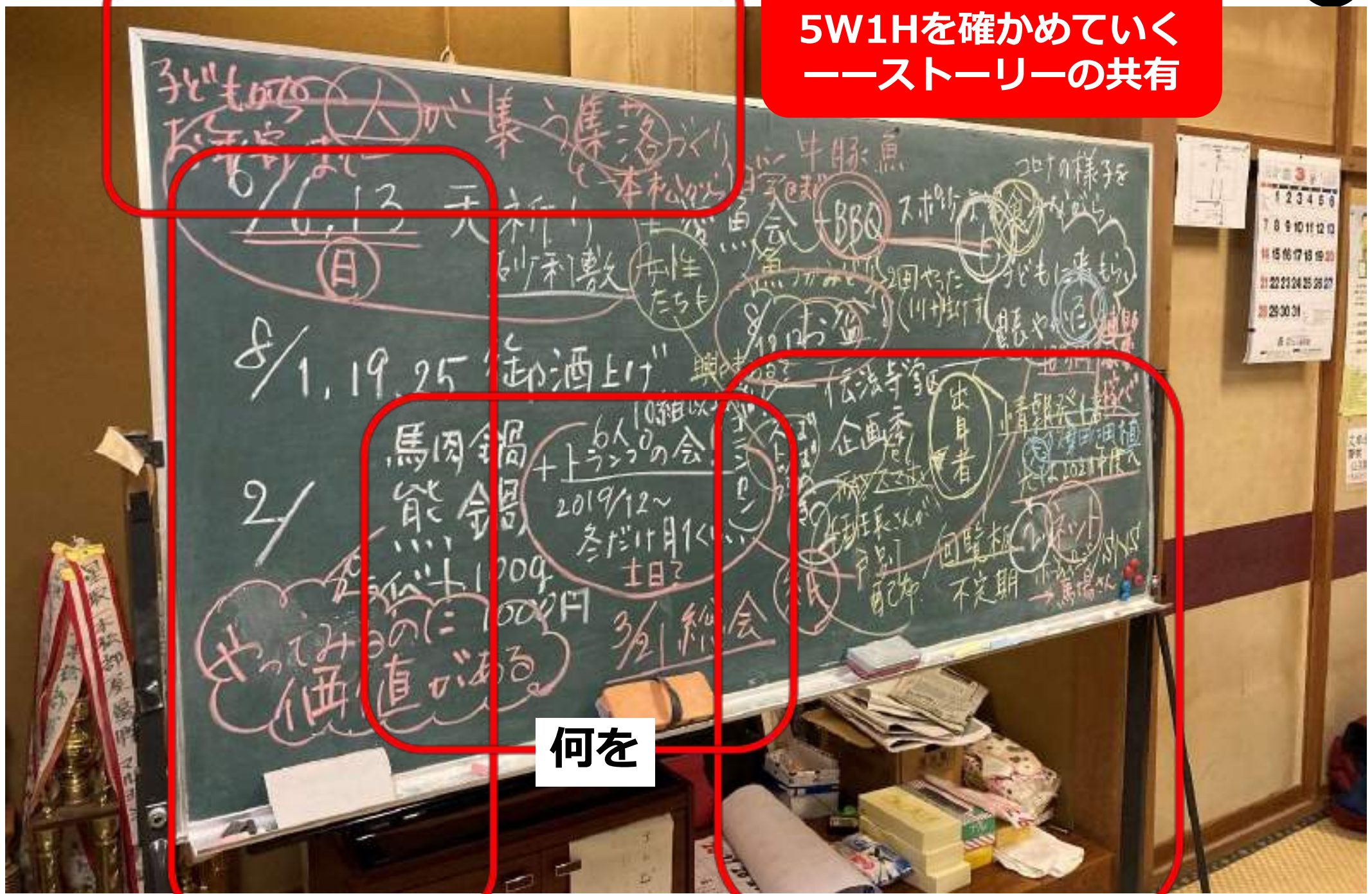
めんどろな行事ことを楽しい集まり =天祈、御神酒上(何と2社月次)、愛魚会、おしどり会、ゴニンカン、熊鍋

どうして楽しいのに若い人いないの? =電波が入らない!

じゃ電波を入れよう!

なんのために

何かを決めるには
5W1Hを確かめていく
——ストーリーの共有



何を

いつ

誰が、誰に、どうやって



昔とった杵柄



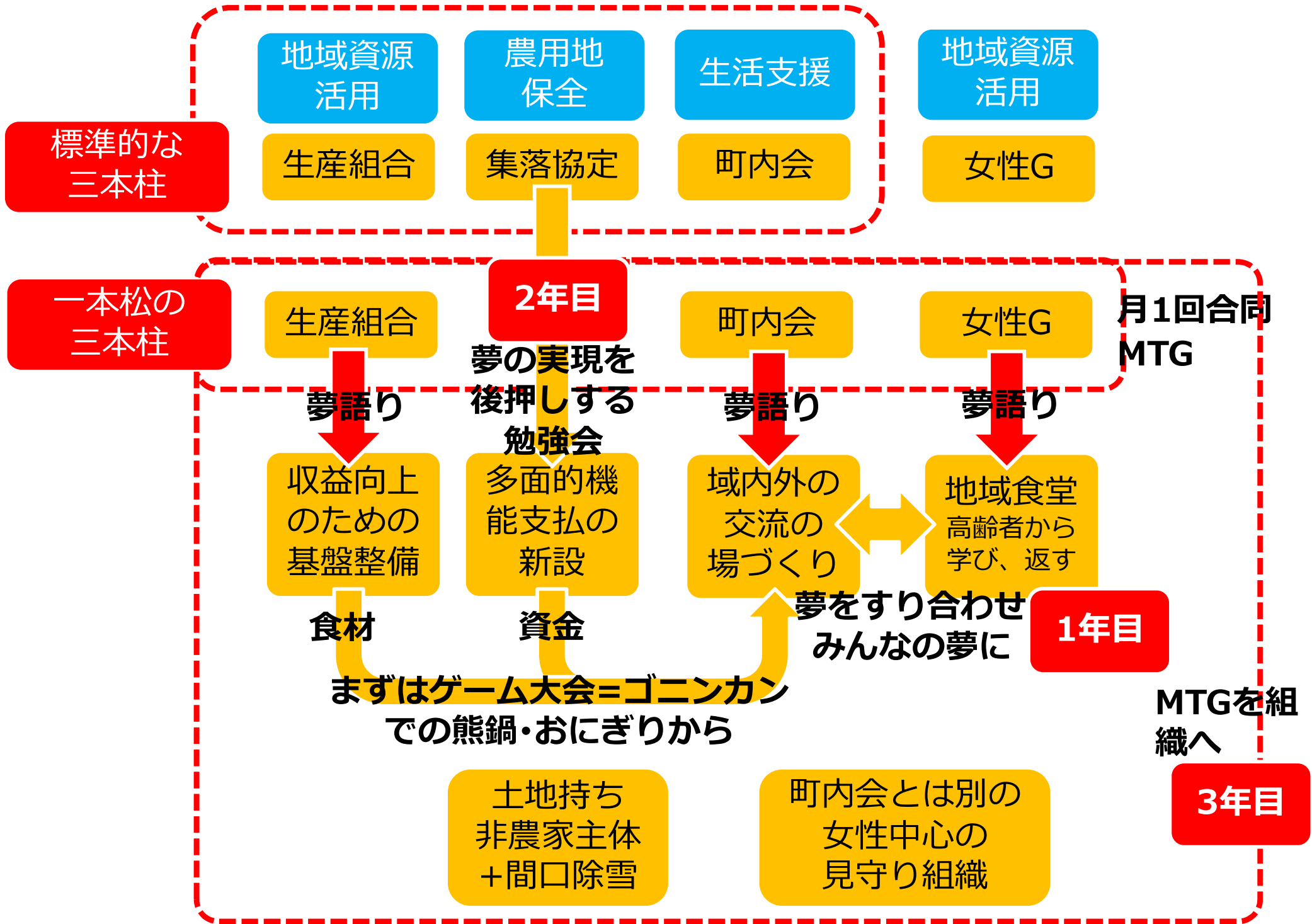
熊鍋とおにぎり



おかあさんたちも
お父さんたちも外で暮らす孫も



がちのゴニンカン



元銀行員の男性にも入ってもらいネット予約も



食堂一本松のものがたりを1枚に

自分の思い出の帯と一緒にメンバー

先輩から学んだ料理を食してもらうのがコンセプト



9月の名称は「稲刈り御膳」

一本松地域の季節の郷土料理をお膳で

公民館に月1のたよりを
拡大して掲示



外で暮らす子どもたちも

食事を通してふるさとへの思いを語る？



そろいのエプロンを事業で

厨房の作業も大分手慣れたもの

帯をテーブルに



席の配置も2名客が多いため無駄のないようテーブル1本で作ってみた。



食材は集落から ～^{やす}康さんちの畑

2000年に生活改善を再建した女性Gは
土づくりと伝承食をセットで学び続け
康さんの畑に来て野菜と向き合うと
自然と献立が浮かぶという



うま味がギュッとつまったおいしい野菜たち



春菊



ブロッコリー



赤唐辛子



キャベツ



高菜



パクチー

この他、米・ゴボウ・ネギ・大根・豆・トマトなどたくさんの野菜を作っています。

てんま夢



白石 志美さん



藤原 美穂さん

わいど わがまち

十和田、七戸



トータル「虹」



上野 百合子さん

坂本 美穂さん

上野 美穂さん

黄色い小旗は 元気の日印

掲示状況 毎朝チェック

十和田・一本松地区 有志が高齢者見守り

「虹」の活動が、地域を元気にしています。十和田市と七戸町で、高齢者の見守り活動「わいど わがまち」が、毎朝のチェックとして進められています。黄色い小旗には「今日も元気です」と笑顔のイラストが描かれています。この活動は、地域住民の協力によって行われており、高齢者の安全と健康を守ることに貢献しています。



掲示状況の黄色い小旗



上野 美穂さん

「わいど わがまち」は、地域住民の協力によって行われており、高齢者の安全と健康を守ることに貢献しています。毎朝のチェックは、地域住民の協力によって行われており、高齢者の安全と健康を守ることに貢献しています。

「わいど わがまち」は、地域住民の協力によって行われており、高齢者の安全と健康を守ることに貢献しています。毎朝のチェックは、地域住民の協力によって行われており、高齢者の安全と健康を守ることに貢献しています。

見守りを担う百合子さん

男性陣は国道事務所から スノーシューターの借上げ・間口除雪支援



三沢市でデザイン事務所を
起業したKさんの紹介で
Kさんママ友に声かけし
なべっこ団子づくり



泣き出してしまうママに
みな感動
共感の連鎖





軽トラに品ぞろえの多さにびっくり！



あれもこれもほしくなるお母さんたち



冷蔵商品もおいてるんだ～？



ついつい買いすぎてしまう。



毎月第2第4木曜日11時頃販売に来ます！買物の楽しみと交流が続くと良いですね。

月1回のサロンのとき
公民館にとくし丸に
来てもらうように



買い支えがポイント

農地保全の中核を担う
男性が買い物の見守りも

どうしても男性高齢者は
サロンに来てくれない



ゴニンカン、熊鍋など
男性ならではの
プログラムも
サロンに位置づけ

在住の看護師の50代女性が
新たな仲間=次世代に
会計などを担うほか
サロンのプログラム、
見守りの方向性の助言も



マイムマイムで消耗が激しかった。



盆踊り復活(40年ぶり)→でも盆中は女性が忙しい
→ならば、盆明けの御神酒上げに
→女性が初めて参加。いいもんだ！嫁に来てよかった

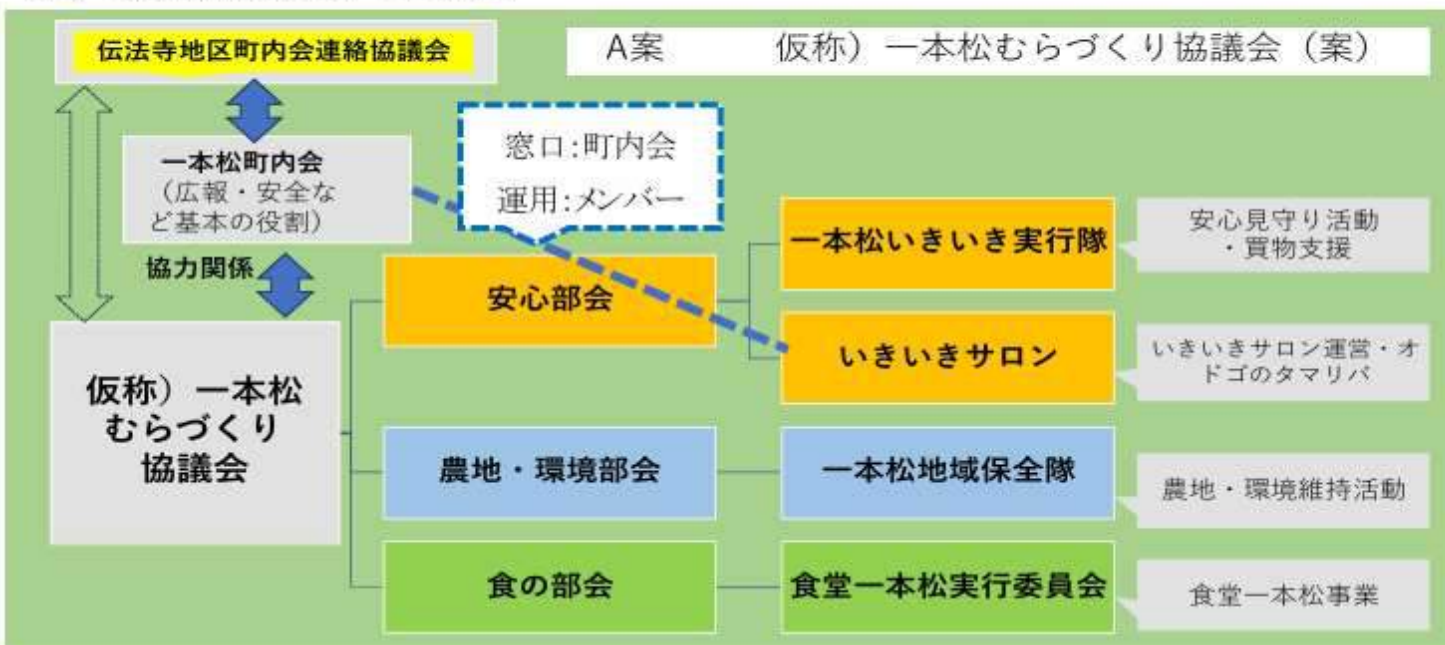


セニアカーで境内まで楽しそうだから来たお婆ちゃん

傾斜のある集落なので
サロンに来られない女
性も自力で来るように

	代表	選出方法	会計	役割
一本松町内会	高橋賢一	毎年の輪番（多選は拒まず）	総会で選出	総会開催（1回/年）常会（1回/年）旧伝法寺小学校地区連合町内会（1回/年）十和田市連合町内会（1回/年）
いきいき一本松実行隊	野崎百合子	規約（気合）	馬場妙子	一本松地区の見守り活動支援
いきいきサロン活動	高橋賢一	気合	野崎節子	町内会活動に属す、毎月第2第4木曜日の開催
一本松地域保全隊	竹内孝	会員の合議による選出	野崎 忍（改良区）	多面的機能支払交付金の受託代表者（農地など）
ひまわり生活研究グループ	野崎さち子	気合	馬場妙子	公民館での飲食業営業許可責任者（食堂一本松など）
ひまわり工房	野崎さち子	個人事業主	野崎さち子	工房での各種製造許可受託者（彼岸団子など）

(2) 今後の組織のイメージと方向



とにかく毎月、
(1)町会
(2)農地
(3)女性
の3つの会合を1時間、
残り30分で全体共有

初めから機能別に部会
をつくるのではなく
自ずと部会ができる

コロナがあっても
しっかり立ち上がる



①隣の他者の夢=本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM



②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM (シール投票)



④身の回りの状況を夢の実現にいかすための物語=5W1Hをつくる
DESIGN for DESTINED DREAM



③身の回りがどうなってるか確かめる
(農地管理状況など)DISCOVER

ニックネーム



地域の一押しのお食は？
なかでも誰の？ どのの？

5年後の地域は
こうあってほしい

地域のありたい姿の
最大の壁は？



①隣の他者の夢=本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM

②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM (シール投票)

👉 課題は誰かが解決してくれること。夢は自分が目指すもの。
個人の夢を話し合いでみんなの夢にできれば、自分事が地域事になる。

👉 まず似顔絵を描き合うことで気分がほぐれる→左脳でなく右脳が働くとの声
ニックネームを聞き合うことで肩書ではなく家族のような関係に
→行政への要望・苦情を言いに来た方が「しょうちゃん」「お父さん」になる

👉 経験上、どんな方でも「こうありたい」という声は必ずある
特に不満・不安ばかりという状況ならば、まずは不満・不安を聞いてもいい
→できれば核心的な不満・不安にまず応えられれば動き出す
(例)うちのムラは遠い→気分の切り換えにはなる！
うちのムラは下水が通っていない→格安の合併浄化槽でもOKに！

夢語りのシートは地域の財産になる



宇佐市深見地区での試み
ぶどうの6次化「百笑一喜」
グリーンツーリズムで著名。

でも互いの夢を語り合うのは
初めてだった。。

3年後訪ねてみると...
公民館に貼り出され
思わぬところから実現も。
新たな仲間の夢も。

1 + 1 > 2 = グループダイナミクス





他者の夢を聞き出すを他己紹介ではなく
未来新聞(日付自由)に独自進化(勢田)



免許返納しても安心して暮らしたい
隣り町に透析に通いたい



住み慣れた家で暮らせるように



・今あるバスを混乗に：子どもとお年寄り、人と荷物を一体的に
・移動販売の帰り荷で農産物を出荷



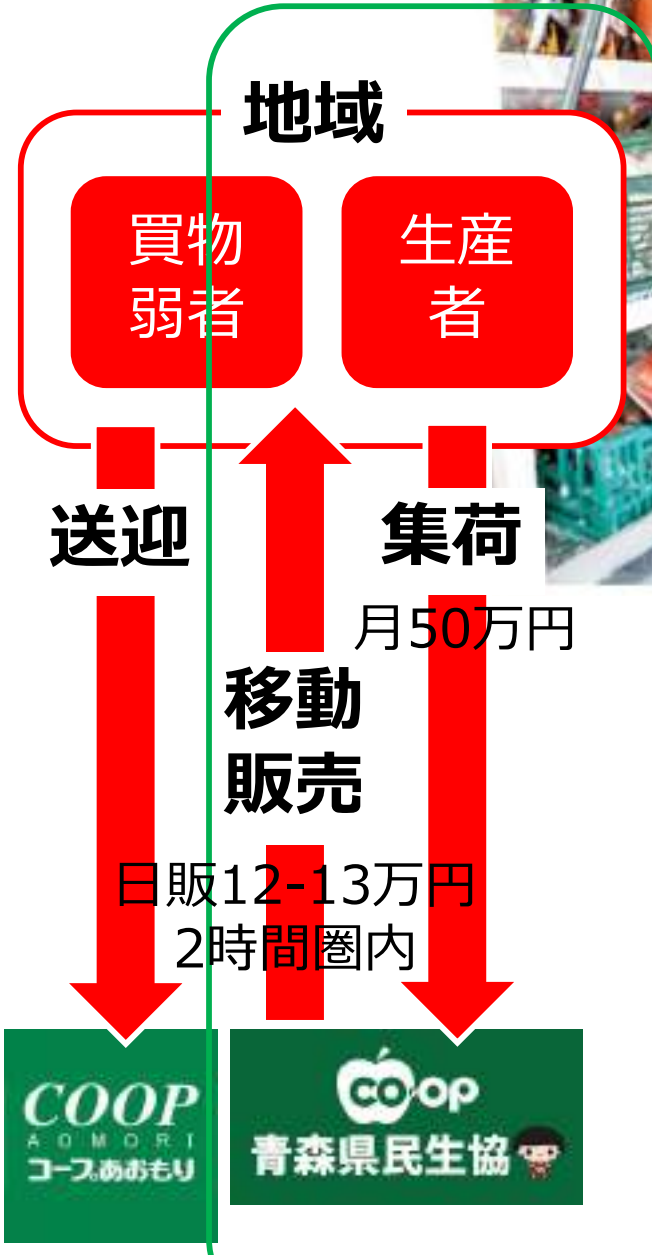
どこでどんなニーズがあるのか
どのルートならば行けそうか

弱者扱いしない！地域づくり



横浜町など 集いの場でのお買物

直売所とテレビ電話を結ぶ。女性にとって買物が一番の脳トレ。



横浜町・中泊町など 産直集荷・配達

全国の産直で、生産者の高齢化対応で、集荷を強化。配達などを合わせて行い運営費負担をできるだけ軽く。特に集いの場を集荷・配達の場合にするのが効果的。

集いの場での餅づくり（佐井村）、お茶っこ費用をメルカリで稼ぐ（三沢市）



畦の草刈が大変だ



畦の草刈が続けられるようにしよう



- ・ 神刈を入れる・草が生えにくい植栽
- ・ 農家でない人や地域外の人も楽しく参加する枠組みをつくる



どこが、どれくらい大変なのか確かめる

黒石市大川原地区1655a



田植機・収穫機、草刈機
などの共同利用組合



車で10分ほど離れた温泉旅館から
そばの作付けを依頼



そば用の播種機や製粉機も
共同利用組合で導入



集落で年2回の意見交換の場が
30-40代の住民の意見から
有機栽培に取り組むことに



中山間直払の棚田地域加算で
ドローンや防草ロボ、水位センサー
なども導入



そばから有機JAS米へ翌作から転換
そばの有機JAS認証にもチャレンジ



米が安くてやっていけない
そばのままで交付金がもらえない



農産物や農地でもっと稼げるように



- ・ 特裁や有機JASに挑戦する
- ・ 地域外の人たちを招いて買ってもらう
- ・ 貸農園を開く



どこで何ができて、どこがうまいのか
どこが大変なのか

平内町全域



若手農家有志で集まり
何気ない情報交換を年3回



転作&趣味で栽培している枝豆を
在来作物の「毛豆」に転換



晩播のため枝豆収穫期が米とかぶるが
学生の手伝いと急速冷凍導入



枝豆として仲間の農家レストランや
町の夏祭りで販売



本業のコメでの共同として
国天然記念物指定の白鳥(飛来地)を
いかした米づくりへ



新たな制度=みどり認定を共同で受け
給食への採用や環直の受給を目指す



獣害で困り果てている



ケモノに負けないムラでありたい



・ 柵の整備・ジビエの活用・草刈、枝落
としての励行で干渉地帯を・獣とつきあう
農:竹、彼岸花、山菜、しし米



どこでどんな獣害がひどいのか
獣害にやられないものはないのか

佐井村川目地区38a



何を作ってもサルに食われる
サルに負けないを目標に話し合いを



農家さんどうしの情報交換の場で
サルに食われにくいものが見つかる



農家さんたちが出荷する直売所で
つくりたいものの勉強会を重ねる



隣の地区や自治体からの通い農の人
4名が農地を引き受ける
& 栽培指導の学びの場ができる



収穫祭 野菜を使った地元の食
& 特産の魚を使ったさつま揚げ



80年代に賑わった山菜加工センターが
新たな衛生基準に集団対応する受皿に



このままではどんどん耕作放棄が増える



農地を荒らさずに未来に受け継ぎたい



- ・ 直払の事務負担の分担・軽減
- ・ 草/獣との付き合い方
- ・ 非農家、地域外の人たちとの楽しみ方



どの農地、誰の所有地で荒れそうか
草刈なのか、獣害なのか、担い手なのか

出雲市須佐地区488a



斜面が竹で覆われる
森林組合職員が退職し集落の世話を



空気清浄機メーカーからの依頼で
炭焼き窯の跡をいかして竹炭に



炭だけでなくチップーでパウダー化
発酵させて田にすき込む



田も維持できない
別のメーカーに依頼され
精油用のクロモジを田に植える



山から選抜したクロモジを育て
空き育苗ハウスで乾燥して出荷



ノウハウを地区全体で共有する場が
& 地域で加工までできるように
畦の防草加工も直払で行う話し合いに



**鶴岡市温海地区
山からのワラビを選抜して
ポット苗で増やし放棄田へ**

**ワラビはイネ科草本より強く
草刈の手間が要らない**

**観光ワラビ園だけでなく
端境期市場出荷で高収益に**

クロモジも放棄田で栽培可能

**出雲市佐田地区でも
山で取った実生の苗を選抜**

育苗ハウスで干して出荷

**南会津町でもアロマオイルに
クロモジ枝葉1kg→5ml**



月山筍を休耕田で栽培。出身者や都市住民との貴重な絆へ



山形県鶴岡市旧朝日村大網地区



約100世帯、400人の集落
 →東京大網会が毎年約50人学芸会に
 →'16.3小学校廃校 大網会訪問は継続



- 「小さな拠点」づくり始動
- ☑大網会を基礎に「物産会員」制度導入
- ☑廃校にゲストハウス機能を導入








物産の核の生産がおぼつかない

耕作放棄地の再開に「会員」参加



他出者以外から「会員」を募る
ツアー・プログラムを連続開催

農村RMOはありたい姿から始める

-  食料安保、有機農業、スマート化といった農政のキーワードに振り回されない。
——農業栄えて農村滅ぶにならないように。
→まずはゴールを定めず、縦割りにならず、ありたい姿から1つずつ積み重ねる
-  危機感をてこにした課題解決型の事業は、行き詰まりやすい
ありたい姿から始めれば、壁にぶつかっても、現場から代案が次々とする
→そのためにも、課題＝解決策(事業)ありきではなく実のある話し合いを重ねる
——ちょっとしたつぶやきも拾われカタチになる繰り返し「言ってみるもんだな」
-  共感の連鎖の源は「食」「農」「土」土づくりは人間だけでなく生物の連鎖の源
 孤食・孤立対策、ではなく年をとっても、わいわいとみんなで食事をしたい
→生活改善・伝承食の延長での地域食堂、食材も地域の土から。
食と農をともに考えると、自ずと有機(的)農業に。
→食を手がかりにすると自ずと女性、子ども、地域外の人びとの共感も呼ぶ
→でも、女性に押し付けない。無理しない。むしろ楽になるように。
お年寄りや障がいをもつ方もみな「弱者」扱いしない。
-  これからの未来。人口減少だけでなく気候変動など思いがけない「災害」が
→東北のみなさんは、豪雨災害でも連年ご苦労さえておられ、
能登のこともあり、えらそうなことは申し上げられませんが、
日頃から、若い世代、地域外との共感の連鎖は、きっと力になるはず